



坂口谷川を華やかに彩る彼岸花とかかし

**心和むあたたかな風景が坂口谷川に**

■第4回坂口谷川彼岸花とかかし祭り

花と芝生を守る会が主催する「坂口谷川彼岸花とかかし祭り」が9月17日から、細江区の坂口谷川で開催されました。

見頃を迎えた赤、白、黄の色鮮やかな彼岸花と、30体のアニメキャラクターや芸能人などをかたどった手作りのかかしが、川岸を華やかに彩りました。

訪れた人は「毎年、きれいな花とユニークなかかしを楽しみに来ています」と笑顔で話しながら、芝生の河川敷で楽しんでいました。

**お年寄りとふれあい交流を深める**

■ふれあい食事会

ひとりぐらしの高齢者の仲間づくりを目的とした「ふれあい食事会」が9月16日、さざんかで開催されました。

会では、大原チンドン一座による音楽パフォーマンスやマジックショーなどが行われた後、お年寄りとこの一座のメンバーと一緒に食事をして、交流を深めました。

その他、静波保育園の園児30人が和太鼓の演奏や歌を披露したり、お年寄りに肩たたきをしたりするなど、ふれあいを楽しみました。



和太鼓演奏を披露する静波保育園の園児たち

**お互いの防災力の向上を図る**

■災害時相互援助に関する協定締結式

福島県南相馬市と牧之原市は9月27日、市役所相良庁舎で災害時に人的、物的援助を行う「災害時相互援助に関する協定」を結びました。

現在、市では長野県松川町、熊本県人吉市、鹿児島県南九州市、青森県三戸町、石川県小松市、山梨県甲斐市・中央市・昭和町と、同じく災害時に人的、物的援助を行う協定を結んでいます。

桜井勝延南相馬市長は「今一度、命の重さを認識し、お互いが助け合える環境が広がっていくことを願っています」と話しました。



協定を締結した桜井南相馬市長（右）と西原市長



400グラムちょうどを目指しお茶を摘む参加者

**お茶摘みは「スポーツ」だ**

■第1回国際スポーツお茶摘み選手権

地元の茶農家が企画した「第1回国際スポーツお茶摘み選手権」が9月18日、牧之原区の茶園で開催されました。

大学生や会社員を中心に、国際の名のお茶ブランドやパキスタンなどの外国籍の人を含む11チーム44人が参加。お茶に遮光ネットをかぶせる競技と、400グラムのお茶を手摘みする競技を行い、茶園管理作業をスポーツとして楽しみました。

また、摘んだお茶での手もみ体験や「まきのはら茶漬」を試食し、お茶の魅力を堪能しました。



今までの取り組みをもとに講話する小笠原先生

**最後まで自分らしく生きるために**

■まきのはら健康大学講演会

第1回「まきのはら健康大学（医療・介護シリーズ）」が9月17日、い〜らで開かれました。この講演会は、地域医療を支えるはいなんの会と市が共催し、医療法人聖徳会小笠原内科の理事長兼院長の小笠原文雄先生を講師に招き、「ひとりで家で死ぬますか？」をテーマに行われました。

小笠原先生は「あなたや家族の誰かが、寝たきり状態や病気で治る見込みがない状態になったとき、その最期をどのように過ごしたいと思うのか、どのように過ごさせてあげたいと思うのか」などについて、実例をもとに話してくれました。

まきのはら健康大学は、今年度に全3回、在宅医療や認知症などについて開催されます。

**秋の収穫を楽しむ**

■稲刈り

萩間小学校5年生の生徒17人が9月12日、学校の裏にある田んぼで稲刈りを行いました。

この体験は、地域のボランティア団体「ヨコグラの会」が子どもたちに収穫の喜びを味わってもらおうと、毎年行っています。稲は「ヒデコモチ」と「キヌヒカリ」で、今年6月に児童たちが田植えをし、大切に育ててきました。

児童は「家でも稲刈りを手伝っているけど、学校での稲刈りは家と違って難しかった。でも、楽しかった」と話しました。



刈った稲をみんなで協力して干していく児童たち



地面一面に散らばる栗を拾い集める園児たち

**おっきな栗をたくさんゲット**

■栗拾い

広さが約1.5ヘクタールある相良油田観光くり園は、毎年9月初旬ごろから10月中旬ごろまで開園し、多くの人でにぎわっています。

くり園の開園を前に、菅山保育園の園児30人は9月2日、待ちに待った栗拾いを行いました。地面一面に散らばる大粒の栗を、イガに気を付けながら、次々と袋の中に放り込んでいました。

園児たちは「おっきい栗がたくさん取れた。初めてやったけど楽しかった」と満面の笑顔を浮かべ秋の訪れを喜びました。



広報担当がどこにでも取材に行きます。あなたの身近にあるホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。

秘書広報課 ☎0052 ✉seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp